

平成 27 年度千葉看護学会総会議事録

日 時：平成 27 年 9 月 12 日(土)

11 時 35 分～12 時 15 分 (40 分)

場 所：千葉大学大学院看護学研究科 講義・実習室

出席者：39 名 (最終)

記録者：高橋良幸評議員，若杉歩会員

1. 開会

大塚副理事長より、開始時点で本会の総出席 25 名、委任状提出は計 311 名であり、会則第 4 章第 22 条第 3 項の条件(会員の 10 分の 1 以上の出席=現在の会員 723 名中 73 名の出席または委任状が条件)を満たしているため、総会が成立することが報告され、平成 27 年度総会の開会が宣言された。

2. 挨拶

石橋理事長より、総会は会員の意見を伺う貴重な場であるため、活発なご意見を頂戴し、今後も開かれた学会として活動したい旨挨拶があった。

(会則第 4 章第 22 条により、これより佐藤紀子学術集会会長が議長として議事を進行した。)

3. 報告

1) 活動報告

(1) 理事会・評議員会報告

石橋理事長より、資料 1 に基づき報告された。

第 20 回学術集会は黒字決算となった。第 21 回学術集会のメインテーマは「互いに育む生きる力・支えあう力」と決まった。理事長特命プロジェクト(研究活動支援プロジェクト)が承認され、電子投稿査読システムが平成 27 年度より開始された。

第 8 期よりメンバーが変更となり活動方針及び課題整理を行った。郵貯の WEB 照会サービスの利用を開始し、会費等の管理が容易になった。厚生労働省が設置する医療事故調査等支援団体に、日本看護系学会協議会を通じて加わる事となった。表彰論文選考委員会

から表彰候補論文の推薦があり、20 巻 1 号の増島麻里子氏の論文が表彰論文として承認された。

(2) 編集委員会報告

中村理事より、資料 1 に基づき報告された。

平成 26 年度は学会誌第 20 巻 2 号を発行し、Editorial Manager による電子投稿査読システム導入に向け検討を行った。

平成 27 年度は、第 21 巻 1 号より Editorial Manager を用いた電子投稿システムが導入されると共に、定期査読に加えて随時査読を受け付けることとなった。学会誌掲載内容の転載許可の依頼があり、理事会での審議を経て、学会より転載許諾を提出した後、依頼者から著者に報告するよう決定した。

(3) 研究活動推進委員会報告

酒井理事より、資料 1 に基づき報告された。

学術集会参加助成事業、論文表彰事業、研究支援金支給事業、教育研究セミナーを実施した。第 8 期は、事業の拡大に伴い人員補強を行った。学術集会参加助成事業では、本学術集会での発表を促進するため、院生の筆頭著者に助成をしている。論文表彰事業では、学会誌第 20 巻の原著論文 11 編から規定に基づき選考した。研究支援金支給事業運営委員会では支給対象者を決定されており、今期の選考結果は今後会員専用ホームページに掲載予定である。

(4) 広報委員会報告

本田理事より、資料 1 に基づき、リーフレットの作成・増刷・配布、ホームページ内容の変更、本学術集会のカメラ撮影をホームページにアップすることが報告された。

(5) 学術集会企画・実行委員会報告

酒井理事より、資料1に基づき企画委員会を平成26年11月から4回、実行委員会2回を開催した旨が報告された。

上記1)活動報告に質問はなく、拍手をもって承認された。

4. 議事

1) 平成26年度収入支出決算報告

清水理事より、資料2に基づき報告された。

2) 平成26年度収入支出決算監査報告

佐藤禮子監事より資料2に基づき、監査を行い、適正な会計処理と認められた旨が報告された。

上記1)、2)について過半数以上の挙手にて承認された。

3) 平成28年度事業計画案

石橋理事長より資料3に基づいて、5つの事業案「1. 実践と研究の往還を促進」、「2. 研究助成事業の推進」、「3. 学会誌の発行」、「4. 第22回学術集会の開催」、「5. その他本学会の目的達成のために必要な事業」について説明がされた。

3)について質問はなく、拍手をもって承認された。

4) 平成28年度収入支出予算案

清水理事より資料4に基づいて、収入支出予算案について提案された。学術集会助成金は、削減が決まっているため来年度の支給はしない。

2名の会員より各質問が挙がった。1点目は、研究活動支援事業が各委員会の予算に組み込まれているため、分かりにくい。そのため事業費として別項目で予算立てした方が良いのではないかという質問があった。石橋理事長より、平成26年度の支出の部「3. 委員会活動費」の「(5)さらなる発展を目指す学会活動プロジェクト」の

費用は昨年度より各委員会の活動費に含めている。もし今後、予算項目として分けた方が積極的な活動をしやすいとなれば検討していきたいと回答された。その回答を受けて質問された会員より、透明性のためには別項目に分けた方がよいと考えるため、検討をお願いしたいと発言があった。2点目は、平成28年度の予算案で繰越金が600万円を超えるため、繰越金の考え方についての質問であった。石橋理事長より、将来計画として法人化等を検討しているため、組織的な改変をする際にこの繰越金を当てたいと考えていると回答された。

4)について、過半数以上の挙手にて承認された。

5) 第23回学術集会会長の承認

石橋理事長より理事会・評議員会で第23回学術集会会長として自身(石橋みゆき理事長、千葉大学大学院)が推挙されたことが報告され、拍手をもって承認された。

5)について拍手をもって承認された。

5. 論文表彰

研究活動推進委員会の委員長である酒井理事より、増島麻里子氏に対して平成27年度の論文表彰が行われた。

6. 第22回学術集会会長の挨拶

第22回学術集会会長である増島麻里子氏より挨拶があった。第22回学術集会は平成28年9月10日(土)に、「つながり、ひろがる看護学」をテーマとして、千葉大学大学院看護学研究科校舎にて開催予定であることが話された。

7. 閉会

大塚副理事長により閉会の辞が述べられた。